

宝永噴火がもたらしたもの

馬場 章 Akira Baba

昭和大学富士山麓自然・生物研究所

— 火山噴出物と史料が明らかにする噴火実態 —

Mt. Hiei is a pyroclastic cone caused by the 1707 eruption, as indicated by volcanic ejecta and historical documents

宝永四（一七〇七）年に富士山南東麓で発生した大規模爆発的噴火は、富士山麓に甚大な被害を及ぼし、現代においては首都圏への降灰事例として想定されている。二〇一八年富士山ハザードマップ改定版作成を契機に、宝永山の形成過程について文献及び地質調査を行った結果、宝永山は宝永噴火による火山噴出物が降り積もって形成されたことが明らかとなった。宝永噴火がもたらした噴火災害や宝永山形成という山容の変化は、火山噴出物や史料から解き明かすことができる。

キーワード：宝永噴火 宝永山 歴史史料 噴火災害 ハザードマップ 富士山

はじめに

富士山は、標高三七七六メートルの活火山である。その火山活動がもたらした山容は、日本人の自然観・文化・芸術・信仰に多大な影響を与えてきた。特に宝永四（一七〇七）年に富士山南東麓で発生した大規模な爆発的噴火は、富士東麓の村落を埋積して甚大な被害を生させ、約一〇〇キロ離れた江戸中心部にまで降灰被害を及ぼした^①。この宝永噴火がもたらした火山災害は、現代社会においても畏怖され、富士山ハザードマップ改定版^②などの火山防災に活かされている。

本稿では、宝永噴火によって新たにできた宝永山について、文献及び地質調査の結果を紹介する。また、静岡県富士山世界遺産センターに収蔵されている資料と伊豆半島や山梨県内に伝承された資料を紹介し、宝永噴火がもたらした噴火災害の実態解明に迫りたい。

一 宝永山の形成

宝永山は、富士山の南東麓にあり、最新かつ最大規模の火砕丘である（図1：裾野市水ヶ塚駐車場から撮影）。この成因については、一九五五年にマグマの貫入によって古い山体が押し上げられて形成された可能性^③が示唆され、二〇一一年には宝永山隆起モデル^④が提示された。そして、二〇一八年に富士山のハザードマップ改定版作成への問題提起^⑤を契機として、筆者らが地質調査した結果、宝永山は宝永噴火による火山噴出物が降り積もってできた火砕丘であることを明らかにした。本稿では（一）宝永山に関する文献調査、（二）宝永山の地質調査結果に関して触れる。

（一）宝永山に関する文献調査

宝永山は、西暦一七〇七年二月一六日から開始した噴火によってできたことに由来し、噴火後に誕生した葛飾北斎「富嶽百景」の画題